

信州大学医学部附属病院 呼吸器・感染症・アレルギー内科に
通院中または過去に通院・入院された患者様またはご家族の方へ
当科における臨床研究にご協力をお願いいたします。

2019年2月5日

「キャッスルマン病の疫学診療実態調査に関する研究」に関する臨床研究を実施しています。

信州大学医学部医倫理委員会の審査による医学部長の承認を得て実施しています。
この研究は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の
情報を公開することが必要とされています。

倫理審査承認番号	4273
研究課題名	キャッスルマン病の疫学診療実態調査に関する研究
所属(診療科等)	呼吸器・感染症・アレルギー内科
研究責任者(職名)	山本 洋(准教授)
研究実施期間	倫理委員会承認日～2023年3月31日
研究の意義、目的	キャッスルマン病における患者診療と治療の実態を把握し、疾患の分類・診断の確立、有効な治療法の普及および治療指針の確立を目指すとともにキャッスルマン病の診療ガイドラインの作成を目的とします。
対象となる患者さん	1990年4月1日から2023年3月31日の期間に当院でキャッスルマン病について医療を受けられた方
利用する診療記録／検体	病歴、診断名、年齢、性別、入院日、既往歴、検査結果、画像所見など。
他機関への試料・情報の提供方法	記録媒体、郵送、電子的配信により提供します
研究方法	過去の診療記録より上記の内容を収集します。
共同研究機関名	研究代表者 大阪大学産業科学研究所 医薬品化学研究分野・特任教授 吉崎和幸 研究事務局 大阪大学産業科学研究所 医薬品化学研究分野 事務局責任者: 吉崎和幸 実施医療機関及び研究責任者 大阪大学医学部附属病院 化学療法部/血液・腫瘍内科 准教授 水木満佐央 研究協力者 青木定夫・新潟薬科大学薬学部・教授

	<p>井出眞・日本赤十字社高松赤十字病院・第2血液内科部長 岡本真一郎・慶應義塾大学医学部・教授 川上純・長崎大学医歯薬学総合研究科・教授、 川端浩・金沢医科大学・特任教授 正木康史・金沢医科大学・教授 矢野真吾・東京慈恵会医科大学・教授 生島壮一郎・日本赤十字社医療センター 呼吸器内科副部長 上田恭典・倉敷中央病院 血液内科・主任部長 鬼頭昭彦・京都大学医学部附属病院・講師 古賀智裕・長崎大学病院・助教 小島俊行・日本赤十字社名古屋第一赤十字病院・副部長 小安 重夫・理化学研究所生命医科学研究センター・免疫細胞システム研究チーム・チームリーダー 瀬戸口京吾・都立駒込病院膠原病科・膠原病科医長 高井和江・新潟市民病院・副院長 塚本憲史・群馬大学医学部附属病院・腫瘍センター長 角田慎一郎・住友病院膠原病リウマチ科・主任部長 徳嶺進洋・市立伊丹病院・血液内科部長 新納 宏昭・九州大学大学院医学研究院 医学教育学講座・教授 藤原寛・宗教法人在日本南プレスビテリミッション淀川キリスト病院・副院長 松井祥子・富山大学保健管理センター・教授 三浦勝浩・日本大学医学部血液膠原病内科、日本大学医学部附属板橋病院 腫瘍センター長 水谷実・三重厚生連松阪中央総合病院・部長 村山真一・インタープロテイン株式会社 事業開発本部 事業戦略部・研究員 山本洋・信州大学学術研究院医学系 医学部内科学第一教室(信州大学医学部附属病院 呼吸器・感染症・アレルギー内科)・准教授 吉藤元・京都大学大学院医学研究科 内科学講座臨床免疫学(京都大学医学部附属病院 免疫・膠原病内科)・院内講師</p> <p>共同研究機関 公益財団法人ルイ・パストゥール医学研究センター・宇野賀津子(データ解析) 公益財団法人ルイ・パストゥール医学研究センター・八木克巳(データ解析) Castleman Disease Collaborative Network (CDCN)・David Fajgenbaum Hospital of the University of Pennsylvania</p> <p>共同研究機関(中央病理診断センター) 金沢医科大学・黒瀬 望(中央病理診断・事務局) 獨協医科大学・小島勝(中央病理診断) 名古屋大学大学院医学系研究科・中村栄男(中央病理診断)</p>
研究代表者	主任施設の名称: 大阪大学産業科学研究所 医薬品化学研究分野 研究責任者: 吉崎和幸

問い合わせ先	信州大学医学部附属病院 呼吸器・感染症・アレルギー内科 氏名： 山本洋（准教授） 電話：0263-37-2631
--------	--

【診療記録、検査結果】を研究、調査、集計しますので、【新たな診察や検査、検体の採取】の必要はありません。

利用する情報からは、患者様を直接特定できる個人情報を削除し、主任施設である大阪大学産業科学研究所 医薬品化学研究分野に提供します。

研究成果は今後の医学の発展に役立つように学会や学術雑誌などで発表しますが、その際も患者様を特定できる個人情報は利用しません。

この研究にご自分の診療記録等を利用することをご了解いただけない場合、またご不明な点については、上記問い合わせ先までご連絡くださいますようお願いいたします。

研究不参加を申し出られた場合でも、なんら不利益を受けることはありません。ただし、同意取り消しの申し出をいただいたとき、すでに研究成果が論文などで公表されていた場合や、試料や情報が匿名化されて個人が全く特定できない場合などには、結果を廃棄できないこともあり、引き続き使わせていただくことがあります。